

株主の皆様へ

株主の皆様にはますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

ここに第79期の報告書をお届けするにあたり、一言ご挨拶申し上げます。

当社グループは、これまで電池とモジュールシステム事業でグループを支えながら、中長期的には強みである素材技術を活用した積層チップパワーインダクタ、DC-DCコンバータ、次世代キャパシタなど当社独自の電子部品の開発・育成により再生を目指してまいりました。前期は液晶テレビの拡大に応じて経営資源を投入し、6期ぶりの黒字化を果たしましたものの、当期は下期において液晶関連製品の受注が減少し、また急激な為替変動の影響を受け、計画を大幅に下回ることとなりました。このような結果となり、株主の皆様には心からお詫び申し上げます。

当期の配当につきましては、誠に遺憾ではございますが、見送らせていただきたく存じます。株主の皆様には大変申し訳なく、重ねてお詫び申し上げますとともに、なにとぞご了承賜りますようお願い申し上げます。

当社グループは、これからの環境変化に対処するために液晶パネル市場へ大きく依存した事業展開を見直し、グループ全体での再度の構造改革を実行しなければならない状況にあると判断し、本年1月に中期的な経営施策として「FDKグループの成長に向けた新たな方針と施策」を発表いたしました。本施策において、注力する事

業のプラットフォームを当社が得意とする素材技術をベースとしたPOWERと高周波の領域といたしました。また、モジュールシステム事業については分社化し、モータ事業については販売機能を子会社に移管し、それぞれ独立事業とする体制へと転換することで、よりスピーディーな意思決定のもと事業の運営を図ってまいります。さらに当社グループは、積極的に他社とのアライアンスを進めてまいります。これらの施策を早期に軌道に乗せることにより、確実に利益を創出できる事業体へと改革を進めてまいりたいと存じます。

株主の皆様におかれましては、なにとぞ倍旧のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成20年6月



代表取締役社長 杉本俊春